

昭和36年度

鹿児島県水産試験場事業報告

鹿児島県水産試験場

昭和 36 年 度

鹿 児 島 県 水 産 試 験 場 事 業 報 告

鹿 児 島 県 水 産 試 験 場

目 次

漁 業 部

南支那海瀬魚漁業調査報告	1
南方マグロ漁業試験	25
集団操業指導事業	39
瀬魚一本釣の概況	61
海況、漁況予報調査	68
沿岸資源調査	95
鹿児島湾内カタクティワン資源調査	107
熊本海域のトビウオ浮敷網漁業調査	123
東支那海 サバはね釣漁況	138
米ノ津の手操網によるクルマエビの不漁原因調査について	205
東支那海共同調査	221
漁業部関係研究報告書刊行書一覧表	222

製 造 部

フィッシュケーキ製造試験	223
油燻防止試験	224
燻製品製造試験	225
乾燥剤使用効果試験	227
魚類廃棄物加工試験	230

養 殖 部

クロチヨウガイ <i>Pinctada margaritifera</i> (L.) の増殖に関する基礎試験 (IV)	231
幼生の室内飼育と飼育条件について	
クロチヨウガイ <i>Pinctada margaritifera</i> (L.) の異状への死について	243
I, 概況と病理組織学的所見	
アケガイ <i>Raphia vernicosa</i> (G.) の産卵期調査	249
日射量とノリ生育層の移動に関する考察	259
移殖時期によるノリ生産比較試験	269
ノリ人工採苗試験	272
出水市潟・古浜地区のノリ養殖被害原因調査	275
水産業改良普及事業	285
A, ノリ養殖技術指導	
B, ワカメ養殖技術改良試験	

調 査 部

ブリ仔採捕並びに播種管理試験	291
ハマチ養蚕場における潮流水質試験	292

沿 岸 資 源 調 査

この調査は昭和28年以降国の委託事業として継続実施している。調査事項は西海区水研の指示により実施し、その資料は西水研に送付している。ここに昭和36年4月～37年3月までの調査概要を記す。

調査依頼先並びに調査担当者は下記のとおりである。

調査担当者	西田 稔, 上野 茂, 川上市正, 坂元節子	
調査地	漁業種類	調査内容
鹿児島港	東支那海サバ跳釣	漁港調査 魚体測定
	近海サバ天秤延縄釣	魚体測定
枕崎港	片手巾着網	漁港調査 魚体測定
万世港	地曳網	漁港調査 シラス採取

調査結果

1. 鹿児島入港の東海サバ跳釣調査

表1に昭和32年以降の鹿児島入港サバ跳釣隻数とその水揚量を示した。

東海サバの漁獲量は初年度の昭和32年を最高に逐年減少し、35年に激減、36年はさらに之にわかけた実稼動船は一時的な棒受網船を含めて13隻、常時操業船は実に5隻という衰微ぶりに入港船数で最盛時の7%、水揚高では5%を示した。

漁場は4月以降終漁期までは魚釣島近海で集中操業し、初漁期の11月～1月にかけては東海中部の農林534区を中心として操業し、3月以降魚釣島西方で操業している。

月別漁獲状況は表2に示した。

2. 東海ゴマサバの魚体調査

魚体測定を実施した数は758尾、内精密測定を行ったのが688尾である。

調査の項目は体長(FL)体重、神経間棘数の算定、生殖腺重量測定、卵熟度の外部観察、耳石の採取である。

1) 体長組成

はね釣で漁獲されたサバの体長測定はんいは265～365mmで内大部分は300～335mmのはんいにある。

(表3)

36年4月～6月の測定魚は魚釣島近海で漁獲されたもので4月に330mmにあったモードは終漁期の5～6月には300～310mmにモード位置が下り全般的に小型化が目立った。

昭和36年11月の初漁期から2月にかけては漁場は主に東海中部の534区に集中されたが初期の魚体は325mmにモードがあって以後徐々に小型化の傾向を示し、漁場が魚釣島へ移動してから330mmにモードのある中型群に変わった。

2) 卵熟度

卵熟度外部観察による階級を雄では未熟、中熟、完熟、放卵後の4段階に、雌では未熟、中熟、完熟、放卵中、放卵後の5階級に分けそれぞれの結果を表4に示した。

調査の結果は11月～12月の測定分は全て未熟卵で1月上旬に中熟卵をもち1月中旬には完熟卵が認められた。この時放卵中のものもあり以後6月の終漁期まで放卵中のものは認められた。

3) 近海ゴマサバの魚体調査

東海ゴマサバの測定要領に基いて390尾(内精密測定291尾)の測定を実施した。(表5, 6)漁業漁獲は天秤釣, 巾着網, 八田網の3種で漁業種類によって魚体長さに大きなひらきがあり天秤釣(主に屋久島近海)で265~400^{mm}, 巾着網(甌島, 種子島近海)で200~425^{mm}, 八田網(鹿児島湾内)で190~235^{mm}となっている。

近海ゴマサバの卵熟度, 外部観察は東海サバと同じ階級で行い表6に示した近海ゴマサバの完熟卵出現は2月上旬にみられ放卵は5月初旬(36年)にみられた。

4) 枕崎港の片手巾着網調査と魚体測定

(1) 漁港調査

昭和36年4月から37年3月までの枕崎港における片手巾着網による水揚は表7に示した。本年度は昨年度より入港船, 水揚高とも約半減している。魚種別にみるとマアジは昨年の倍に増加しているがウルメ, サバの減少が目立っている。これは漁場としてアジ類の多い甌島野間岬の沖合での操業が多く一方サバ, ウルメ等の漁獲される佐多岬沖合での操業が活発に行われなかったためと思われる。

(2) 魚体調査

主に近海ゴマサバを測定しているが測定要項は東海サバと同じである。結果は表8, 9に示した。

5) 万世地曳網の漁港調査

万世地曳網の現有勢力は8統で従来夏季を除いて操業されカタクチイワシのカエリシラスは11月から3月他の月は中小型魚を漁獲していたが昨年末, 野間岬沖合での一本釣(カツオ等)に従事する船が増加し, このため人手不足に陥り主要時期以外は殆んど休漁状態である。漁獲量も昨年より半減しており(表10)この状態は大量の漁群来遊でもないかぎり改められそうもない。
(担当者 川上市正)

表1 年別鹿児島入港船数と水揚高

年	入港船	%	水揚量 kg	%
32	1,006	100	24,573,191	100
33	938	93	19,583,950	79
34	547	54	10,515,671	42
35	144	14	2,442,035	9
36	76	7	1,469,690	5

表2 東海サバ釣漁港調査表(鹿児島港)

月	入港船数	サバ水揚量 kg
36.4	11	149,409
5	17	408,470
6	6	123,528
7	0	
8	0	
9	0	
10	0	
11	0	
12	13	375,655
37.1	16	202,219
2	3	14,630
3	10	195,779
計	76	1,469,690